

令和5年度 福井県立金津高等学校 学校評価書

項目 〔校務分掌〕	具体的取組	成果と課題	改善策・向上策
1 教育課程 ・ 学習支援 (教務部) (授業改善・IPT企 画室)	① 主体性・自立心・探究心を育てるために、他者と協働して学びを深め、コミュニケーション能力およびプレゼンテーション能力を高める学習の充実に努める。	○ 教職員は、昨年同様主体的・協働的な学びを育むための授業作りに積極的に取り組んでいる。 ○ 生徒は、いずれの学年も授業の中で自分の考えを適切に伝えたり、主張することができている。 △ 保護者から見た子どもの学習に対する評価について、3年保護者は目標指数を上回ったが、1、2年保護者の数値が下回ったため、全体でも目標指数を8.1%下回る結果となった。子どもの取組に対する保護者の満足度が低い。	◇ 主体的・協働的な学びを育むために、教職員は引き続き積極的に授業作りの工夫・改善を続けていく。そのために、授業改善・IPT企画室を中心に、互見授業や授業力向上研修会を定期的に開催し、授業方法やICTの活用方法、探究的な学びについての実践共有を行い、教員の授業力向上を図っていく。 生徒が家庭でも主体的に学習に取り組むことができるよう、宿題の出し方について各教科で検討するとともに、生徒自らが目標を設定し、学習支援アプリ(Classi)を有効に活用した学習活動を推進する。
	② 生徒が目的意識を持ち、自主的・自律的に放課後を活用できるよう内容の精選を図る。	○ ほとんどの教職員が、生徒の自主的・自律的な取組に対し、積極的な働きかけができている。 ○ 教職員の働きかけによる効果もあり、第1学年・第2学年ともに、目標指数を上回る生徒が放課後活用の時間について積極的に取り組んでいると回答している。 ○ 第3学年においては、放課後の時間を部活動や進路実現のための学習の時間として有効に活用しているという回答を多く得た。	◇ 第1学年、第2学年と積み上げてきた主体的に様々な活動に取り組む意識を、次学年でも持ち続けることができるよう学校生活全般で引き続き働きかけていく。この働きかけが、当該学年や特定の教員への負担とならないよう、すべての教職員が協働できる組織づくりを目指す。 部活動参加や進路実現につながる活動、探究活動を通し、生徒が目標を定め、その実現に向けて目的意識を持ち、取り組むことができるよう全教職員で引き続き生徒に働きかけていく。 これらの働きかけを通し、生徒が放課後を自主的・自律的に活用し、有意義な時間の活用ができるよう支援していく。
2 生徒支援 (生徒支援部)	① 登校指導や頭髪服装指導をとおして、挨拶の励行、時間厳守、身だしなみなどの基本的な生活態度の育成に努める。	○ 朝の挨拶活動などに協力していただき、教職員は積極的に指導に取り組んでいる。 ○ 挨拶ができる生徒の割合は例年同様高く、部活動を中心に場に応じた挨拶ができている。 保護者からの評価も高い。	◇ 引き続き集会等の指導の機会を利用して挨拶の意味や基本的な生活習慣の確立の重要性を理解させるよう努める。生徒会とも協働し、挨拶の意義を考える機会を増やし、すべての生徒が校内外にかかわらず積極的に挨拶ができるよう啓発する。
	② 学校行事やクラス活動、部活動などに積極的に取り組ませ生徒の自主的・実践的態度とリーダーの育成に努める。	○ 教職員は個々の生徒に向き合い、積極的に取り組んでいる。 ○ 多くの生徒が自主的・積極的に行事や部活動などに取り組んだ。 ○ 保護者の評価も全体では目標の9割を超えたが、2学年は9割未満となっている。	◇ 生徒が学校行事やクラス活動、部活動において、達成感や充実感、自己肯定感を味わえるよう工夫する。個々の生徒に応じた活躍の場を提供できるように学校祭や遠足等の内容を生徒と共に改善し、積極的に参加できるように支援していく。本年度は保護者の満足度の低下だけが顕著で、原因がどこにあるのか検討が必要。
	③ いじめの未然防止、早期発見・解決に対する教職員の意識の定着・高揚に努める。	○ すべての教職員がいじめ防止に関する高い意識を持ち取り組んでいる。	◇ いじめ問題に対し、常にアンテナを張り見落としのないようにする。校内の情報システムや会議等の機会を利用して教職員間での生徒の情報共有を図る。研修会等を通して、いじめ問題に関する正しい理解をさらに深める。
3 進路支援 (進路支援部)	① 進路行事の企画や模試の実施・分析を行うことで主体的な進路選択ができる力を育むとともに進路意識の高揚を図る。	○ 昨年度は生徒・保護者の評価が目標指数を上回ることができなかったが、今年度は教職員・生徒・保護者全てで目標指数を達成することができた。特に保護者の満足度指数が上昇した。土曜講座、休業中の補習の他、各学年での取組に対する評価もあるのではないかと。	◇ 模試の取組について、学習支援アプリとの連携を充実させる。
	② 学年通信や進路だよりの発行、研修会等をおして、生徒・保護者への進路情報の提供に努める。	○ 昨年に続き、教職員・生徒・保護者全てで目標指数を達成することができた。保護者の満足度が上昇した。HPや紙媒体、講演等を通しての情報伝達が時機を得ていたと言えるのではないかと。担任や学年会を初めとする教職員の協力も大きい。	◇ 保護者のやや不十分という数も上昇している面もある。タイムリーな進路情報の提供を継続して図っていく。 ◇ 生徒に対してオープンキャンパスや各種体験の積極的な参加を促す。

項目 〔校務分掌〕	具体的取組	成果と課題	改善策・向上策
4 中高一貫教育 (中高一貫教育)	<p>① 中高連携に関する事業内容や取組についてホームページや広報紙等を活用し積極的に広報するとともに中高の連携を強め内容の精選を図る。</p> <p>② 中学校での連携授業において、チームティーチングを実施し、丁寧でわかりやすい指導に努める。</p>	<p>○ 本校教職員の事業実践に対する評価は昨年同様に高かった。</p> <p>○ 事業実践に関する連携中学校関係教職員の評価は、昨年度に比べ目標指数が11.8%上回った。</p> <p>○ 中学校の連携クラス3年生は、実践している事業に対し、意欲的に取り組むことができています。</p> <p>○ 連携中学校連携クラス3年生の保護者の評価結果は、昨年同様高い評価を得た。</p> <p>○ 授業に関わっているすべての教職員が積極的に取り組んでいる。</p> <p>○ 連携授業に関して、連携中学校関係教職員の評価結果は、目標指数を上回った。</p> <p>○ 連携中学校連携クラス3年生の連携授業の理解度は、目標指数に達しているが、昨年度の数値を下回った。あまり理解できていない、ほとんど理解できていない生徒もいる。</p> <p>○ 連携中学校連携クラス保護者の連携授業に対する満足度は、目標指数に達している。しかし、昨年度に比べ6.7%数値が下回った。</p>	<p>◇ 現在実施している中3生対象の各事業内容に関しては、中高一貫独自の事業であり、教員、生徒、保護者の満足度も高く、今後も継続して実施していく。中高の連絡会等により、事業や授業に関して意見を出し合うことで内容の精選をはかる。中学校と高校の連携に加え、2中学校間の情報共有や連携にも積極的に関わっていく。高校の連携クラスでの取組について、中学校に情報公開する方法を検討する。</p> <p>◇ 授業担当者は、チームティーチングにより、連携中学校3年生に丁寧でわかりやすい授業を引き続き行っていく。探究的な内容も継続して取り入れていく。中3生で授業内容があまり理解できていないと回答した生徒もいるが、授業自体は楽しいと感じている。生徒の興味・関心を引き出しながら、知識の定着を図る支援の方法を研究する。連携授業での取組内容について、保護者・地域への情報発信を推進する。</p>
5 保健管理 (保健部)	<p>① 家庭と連携し、心身の健康に関する知識を深めるとともに、感染症対策としての毎朝の検温・体調チェックをとおして、自己の健康管理能力を育てる。</p> <p>② 美化意識の向上と主体的な清掃活動の実践力が育つ支援に努める。</p> <p>③ 気がかりな生徒に対する理解と適切な対応に努める。</p>	<p>△ 教職員・保護者の指数は、目標指数を上回る結果であったが、生徒については、全体としては昨年の指数を上回ったが、目標指数の90%に達しなかった。学年毎では、1、3年のみが目標指数を上回る結果となった。</p> <p>○ 校内での教員および生徒の清掃に対する取組は目標指数を上回った。家庭での学習環境の整理に対する保護者の評価も目標指数を上回った。</p> <p>○ すべての教員が、気がかりな生徒に対する理解と支援を行っている。生徒も不安なことを相談できる状況である。</p>	<p>◇ 掲示板や保健だよりなどを活用し、生徒に対して、これまで以上に、健康に関する知識を伝えていく。また、生徒集会など通して、日々の健康管理の必要性を自覚させるよう促していく。</p> <p>◇ 教室・廊下の整理整頓や清掃週間の指導を通して美化意識を育てるとともに、整理整頓の重要性を認識させ、家庭での学習環境の整理の向上につなげていく。</p> <p>◇ 引き続き、保護者、外部機関と連携を取りながら一つ一つの事例を理解し、対応していく。また、生徒が相談しやすい環境作りを努める。</p>
6 ひらかれた学校づくり (図書渉外部)	<p>① ホームページやPTAだよりを通して、本校教育の取組を積極的に広報するとともに、保護者や地域社会と連携した活動の充実に努める。</p>	<p>○ ホームページをこまめに更新したり、PTAだよりの充実を図ったりした結果、1、3年生保護者による評価が大きく改善されたが、2年生の指数のみ昨年度よりも下がっている。</p>	<p>◇ 保護者に本校の教育活動についてさらに理解してもらえるように、引き続きホームページ及びPTAだよりの充実を図るとともに、特に2年生の保護者への広報活動に力を入れる。</p>
7 読書支援 (図書渉外部)	<p>① 図書および資料の整備と充実に努める。</p> <p>② 朝読書をはじめとした読書活動の充実および読書マナーの向上に努める。</p>	<p>△ 昨年とは質問文及び選択肢を変更した結果「よく揃っている」「ある程度揃っている」の合計値は各学年とも大きく改善したが、目標指数には届かなかった。</p> <p>○ 1、3年の指数が90%以上となり昨年度から大きく改善した結果、全体値としては目標を達成したが、2年生の指数が81.5%と目立って低い。</p>	<p>◇ 図書館の環境整備に努めるとともに、探究活動への支援など生徒のニーズに即した書籍の充実に努める。また、生徒への広報活動のさらなる充実を図る。</p> <p>◇ 引き続き生徒に朝読書の意義を理解させるとともに、学級文庫の充実を図る。特に2年次の指導の充実に努め、自ら進んで読書活動に取り組むような習慣づけを図る。</p>
8 探究支援 ・ 授業改善 (授業改善・IPT 企画室)	<p>① 探究支援 総合的な探究の時間における課題探究活動に主体的に取り組みませ、課題解決力の育成に努める。</p> <p>② 授業改善 ICTを活用し授業や課外活動等の校内活動の改善に努める。</p>	<p>○ 生徒・教員ともに、目標値を上回ることができた。課題探究の方法を大きく変更し、学校全体として、課題探究に積極的に取り組む雰囲気醸成されつつあると考えられる。</p> <p>○ 生徒・教員ともに、目標値を上回ることができた。授業や放課後活用で積極的にタブレットを使用していることが影響していると考えられる。今後は、活用内容にも着目していきたい。</p>	<p>◇ 課題探究の支援の方法や取組内容について、学年間の連携を図る。教員・生徒ともにIPTの活動に取り組んでいる生徒が多いため、より積極歴にに取り組むことができるようにIPTの活動についての意義を共有する。</p> <p>◇ 約半数の生徒が、特定の場面でのみICTを活用している。より多くの場面で活用し、生徒が自走できるようにICTの活用例やメリットを生徒にも普及していく。また、課題探究でのデータ分析などより高度な利活用を支援していく。</p>

備考：「成果と課題」欄の「○」「△」は、アンケート集計結果に基づき、目標指数を達成した場合には「○」、達成しなかった場合には「△」で示している。